

令和6年度 審判講習会（競技委員会より）

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～
- 2 各種競技会における報告事例
- 3 その他

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

- (1) 迷惑撮影の実態と対策
- (2) ロードレースにおける助力の認識

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(1) 迷惑撮影の実態と対策

引き続きのお願い事項

▶ 会場整備・啓発活動の徹底

- ・会場内への注意喚起ポスターの掲示
- ・大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
- ・大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
- ・スタッフ/審判による会場巡回
(特に、女子短距離種目、跳躍種目)
- ・トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(1) 迷惑撮影の実態と対策

引き続きのお願い事項

▶ 競技運営面の工夫

- ・表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
- ・レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保
(荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いても安全な導線の確保)



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(1) 迷惑撮影の実態と対策

引き続きのお願い事項

▶ 地域管轄警察署との連携

- ・ 開催期間中の定期的な会場巡回
- ・ 警察署名の入った盗撮禁止看板の制作



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(1) 迷惑撮影の実態と対策

陸連主催大会での取り組み例

▶ 1階層通路下での撮影禁止
(スマホ・タブレットのみ可)

- ・ GGP/日本選手権での取り組み例
- ・ 完全撮影NGとしないことでファンと共存する形をとっている
- ・ 選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(1) 迷惑撮影の実態と対策

陸連主催大会での取り組み例

- ▶ 100mスタート後方の撮影禁止エリア設定
- ▶ 通報フォーム (QRコード) 設置
- ▶ アスリート委員会との取り組み (リボン活動)



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(2) リレー/駅伝のユニフォームルール
(選択制ユニフィフォーム)

【背景】

- 近年、迷惑撮影 (盗撮) の問題が拡大しており、選手自身が自ら身を守る意識を持っている。
- 自身の身を守る観点から、「ユニフォームの形式 (セパレート・ブルマ・スパッツなど) を選択したい」と考えている選手が一定数いることが、アンケート回答等から判明した。
⇒ 「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、仕方なく望んでないユニフォームを着用しているケースがあった。

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(2) リレー／駅伝のユニフォームルール
(選択制ユニフィフォーム)

国体 女子リレー種目における ユニフォーム着用割合の変化 (2019年→2022年)	
○4選手ともブルマタイプ	94% → 64%
○4選手ともスパッツタイプ	6% → 18% UP!
○選手により選択	0% → 18% UP!

※陸連調査のため誤差あり

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(2) リレー／駅伝のユニフォームルール
(選択制ユニフィフォーム)



△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(2) リレー／駅伝のユニフォームルール
(選択制ユニフィフォーム)

【競技規則】

- ◆ ルールブッカーTR.5 服装、競技用靴、アスリートビブス
5.1全国的な競技会でのリレー競技においては、
チーム出場者は同一のユニフォームを着用する。
- ◆ ハンドブッカー競技者係 実施要領③留意点(5) 服装
全国的な競技会でのリレー競走において、チームの出場者はラン
ナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(2) リレー／駅伝のユニフォームルール
(選択制ユニフィフォーム)

【競技規則】

- ▶ 同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問い
ません。
(ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニン
グシャツの選手が混在していても、**デザインや配
色が同一であれば、ルール上は問題ありません**)
※駅伝も同様



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(3) 助力について（ロードレース）

【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている



- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(3) 助力について（ロードレース）

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、立ち止まりや横臥等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフが声掛けを行うことは、助力とは見なさない。**
- ・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から審判長もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(3) 助力について（ロードレース）

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・審判員や公式の医療スタッフが一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、**助力とは見なさない。**
- ・審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく必要がある。

- 1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

(3) 助力について（ロードレース）

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項**や**申し合わせ事項**での周知、および**監督会議**等での**ご説明**をお願いいたします。
- ▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議**等での**周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。
- ▶ 医師を含む医務員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）整備**の上、**競技会の開催**をお願いいたします



1 安心・安全 information
～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～



2 各種競技会における報告事例

- (1) 第108回日本陸上競技選手権大会
新潟陸上競技協会
- (2) 第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
福岡陸上競技協会
- (3) 第51回全日本中学陸上競技選手権大会
福井陸上競技協会
- (4) JOCジュニアオリンピックカップ
三重陸上競技協会

2 各種競技会における報告事例

- (1) 第108回日本陸上競技選手権大会
新潟陸上競技協会

◆男子100m予選3組において、フィールド種目との重なりで場内がざわついている中でスタートで不正スタートと判定された選手から抗議があった。

「スタートのタイミングを考えてほしい」旨の抗議内容であったため失格裁定は変わらなかった。

選手側からは「今後の競技運営全体にかかわるものとして上訴したい」とのことで上訴が行われた（裁定は変わらないため棄却）

※この内容は全体で共有し再発防止を図った。

2 各種競技会における報告事例

- (2) 第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
福岡陸上競技協会

◆酷暑にいかに対応するか

台風や雨、雷に見舞われることなく大会期間中は晴天に恵まれた。その一方、気温は連日35℃を超える猛暑下での大会となった。
熱中症対策として、長距離種目では第2コーナー付近で散水をしたり、フィニッシュ地点に簡易プールを設置してアイシング可能にしたりした。

◆大会の円滑な運営のための工夫・方策

表彰とマーシャルに関しては、日本陸連JTOより指導助言を受け、流れや事案の対応をした。

2 各種競技会における報告事例

(3) 第51回全日本中学陸上競技選手権大会

福井陸上競技協会

- ◆ 開閉会式や表彰を競技場内で行わない形にする事で、競技運営への影響が最小限に抑えられた。
- ◆ 報道カメラマンの中には、他の大会と比較し、撮影可能エリアについて意見を述べられる方々がいた。報道関係者同士のトラブルがあり、最終的に専務理事や日本中体連部長の先生方にも入っていただき、解決をした事案があった。「安全面の確保・公正公平な競技運営のもと生徒が十分に力を発揮できるよう配慮した撮影エリア設定」であり、「本大会でのルール」に協力していただきたい。

2 各種競技会における報告事例

(4) JOCジュニアオリンピックカップ

三重陸上競技協会

- ◆ 撮影・盗撮対策
会場全てにおいて、一眼レフの望遠レンズを禁止。その上、スタンド中央より上はビデオカメラ・コンパクトデジカメOK。今年も「変態」が数人いたが、動画を撮影し、正面からダイナミックな写真を撮りたいと言いつてを徹底しているため、取り締まりは無理。今は、女性の業者に変態写真撮影を業務委託している「変態」がいるケースもある。「変態」は、それっぽい高画質の動画を撮影し、そこから下半身アップの動画や写真を切り取って楽しむ（販売する）。
- ◆ 選手受付・報道受付
ADが1枚足りないという嘘つきがいるため、ビブスとADの枚数を本人と確認してから渡す方が良い。

3 その他

(1) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方(修正)

(2) アナウンス内容についての確認

3 その他

(1) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方(修正)

- ◆ 国内の競技場ではグループスタート時、代用縁石を(縁石とみなして)置いている。



国内競技場における第2グループのスタートライン【図1】



海外競技場における第2グループのスタートライン【図2】



全線に設置した代用縁石【図3】

3 その他

(1) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方(修正)

- ◆ 厳格に言えば国内競技会において代用縁石を設置する際は、競技規則に則れば全線に置く必要がある。
- ◆ 競技場保有の代用縁石の数が足りなければ、1本おきに置かざるを得ない。なお、現在の競技場の検定では全線に設置できる数があることを確認しており、不足する事象は数年で解消の見込みである。
- ◆ 国内で実施する国際大会においては全線設置を基本としてレースがスタートした後は速やかにすべての代用縁石を撤去することとなる。
- ◆ グループスタートのレースが複数組ある場合もレースごとに並べることが望ましい。

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

1. 日本記録等の新記録誕生のアナウンスについて
トラック種目 フィールド種目 日本記録について
2. フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて
3. 選手の呼び方について
4. 用語等について
5. 競技会を盛り上げるための音楽について

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

- ◆ 1. 日本記録等の新記録誕生のアナウンスについて
新記録が確認された時点で「新記録の誕生です!」とコメントしてよい
日本記録については本来なら、諸手続きを経て公認されるものではあるが、その場で計測された数値は事実であり、臨場感を大事にし、その瞬間を選手と観客が共有できた喜びを伝えたい。
記録が確認されてすぐ新記録のコメントをせず、当該レースや当該種目の終了を待ち、全体の結果が確定するまで待っている、間の抜けたアナウンスになってしまう。
例えば、やり投げで北口選手が、1回目に70mラインを超え、計測結果が標示されたにもかかわらず、「日本記録を上回っている模様です。正式結果をお待ちください。」などとコメントした場合、やり投げの競技が終了して投てき物の再検査が行われ、結果が確定し、結果発表まで何も言えないことになってしまう。
正式結果(確定された結果)の発表を待たねばならないとなると、臨場感のあるタイムリーなアナウンスは実現できない。

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

- ◆ ・トラック種目
着の選手がフィニッシュして止まったフィニッシュタイマーが一度消え、レーンナンバー・風向風力の情報とともに、タイムが再表示されたところで「新記録の誕生です!」とのコメント。
ただし、黄旗が挙がっている場合は記録の確定を待つという旨のコメントに留める。
→ 黄旗がなかった場合、フィニッシュタイマーに再表示された記録が確定されたものである
- ◆ ・フィールド種目
記録表示板に計測結果が表示されたタイミングでコメント。
→ 例) やり投の日本記録を示すのラインが引かれていて、これを完全に越えている場合は表示の前に「越えている」のコメントをして計測結果表示を待つのもよい

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

◆ 日本記録について

陸連で公認されている日本記録は、CR34〔国内〕にある種目とカテゴリーであるものの、「魅せる競技会」にするためには、それ以外の国内記録についてコメントしたい場合もある(国スポなど)。

→ 日本記録(シニア)・U20 日本記録・U18 日本記録以外の学生・高校・中学等の記録をコメントする必要がある場合は、各 HP 等で事前に確認すること

日本記録…陸連 HP <https://www.jaaf.or.jp/record/>

学生記録…日本学連 HP <https://juou.jp/recordroom/ur.html>

高校記録…(機関紙)月陸 Online <https://www.rikujyokuyogi.co.jp/highschoolrecords>

中学記録…現在検討中

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

◆ 2. フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

システム使用時には、トップ8の記録が確定された時点で、スクリーン使用時は表示も合わせて発表する

システムを使用している競技会では、ピットで選手に伝える前にアナウンサーによって発表できることが多い。システム使用により、記録の正確性は担保されていると考えられる。トップ8を選手に伝えるのは、フィールド審判員でなければいけないということはない。むしろ、記録が確定したら一刻も早く伝えて、時間をかけずに後半の試技へつなげる。

選手に対しては、トップ8は場内アナウンスの発表やスクリーンの表示で確認する旨を事前に伝えておき、競技を進めるといやり方をしている競技会もある。

この場合、トップ8をどのように発表するのかを事前にフィールド審判員と確認しておく。

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

◆ 3. 選手の呼び方について

「さん・くん」を付けずに呼ぶ等、選手の呼び方についての決まりはない

陸連として「こうするべき」という指示はなく、競技会主催者が方針を立てればよい。最近は、男女ともに「さん」呼びをする場面が多くなっているが、競技会の性質や参加する選手のレベル・年齢等を考慮して決めればよい。ただし、一旦方針が決まったならば、途中で変更するべきではないし、その競技会を通してアナウンサー全員が、同じ呼び方ができるように徹底する必要がある。

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

◆ 4. 用語等について

原則は陸連 HP 掲載の『JAAF アナウンサーのしおり』『初めてマイクにおかう人へ』のとおり

とくに、数字の読み方・種目の読み方・途中時間の読み方等をもう一度確認してほしい。

最近では「…であります」という言い方はせず、普段の話言葉に近い自然な言い回しになっている。

例) 「…です」「…ました」等

また、400mや途中時間の読み方を「1分10秒」とするのか、「70秒」とするのかには現在のところ決まりはないが、選手に向けてのアナウンスなら、選手が普段慣れている秒単位であるし、観客に向けてなら、実生活に近い分単位であろう。アナウンスする相手を念頭に、主任の判断で方針を立て、その競技会のアナウンサー全員が統一した言葉でコメントする必要がある。

3 その他

(2) アナウンス内容についての確認

全国競技運営者会議資料（競技運営委員会アナウンスチーム）より

◆ 5. 競技会を盛り上げるための音楽について

演出としてBGMを使用することにルール上の制限はない

BGMを使用するのか、どの程度の音量にするかは、競技会の性質や競技の進行に応じて主催者が決める
大規模競技会などでは、プロのDJが入り、競技中に大音量で音楽を流すことが多くなった。

この場合、競技運営上支障が出たとしても、BGMの音量調節より、競技運営の方法を工夫することが求められることもある。例えば、審判員同士の会話が聞こえにくい場合は無線を使用するなど、事前に対策を立てておくことが重要となる。

EPMが任命されていれば、BGMをいつ使用するか、どのタイミングで止めるのか等EPMの判断によるが、EPMやDJが不在でBGMを付けるとすればアナウンサーが兼任する場合が多い。関係者との事前の丁寧な打ち合わせにより理解を得ることが重要となる。

以上

茨城陸上競技協会
競技委員会 高島 香

令和7年度 審判講習会（競技委員会より）

ご清聴ありがとうございました。